

1

特集

今年も埼玉大学は コロナ禍の学生を応援します！

 Vol. 28
 August
 2021

カレーで学生を応援！ 学食で1日200食を無料提供

長引く新型コロナウイルス禍、普段と異なる環境でも学びを止めず、目標に向かって頑張る埼玉大生。

そんな学生にエールを送るべく、埼玉大学生生活協同組合の協力のもと、

6月8日(火)から7月9日(金)までの約1ヶ月間(土日祝除く)1日200食限定でスペシャルカレーを無料提供しました。

この取組は坂井貴文学長の発案で始まったもので、今回無料で提供されたのは、埼玉大学マスコットキャラクターの名前を冠し、「メリンちゃんスペシャルカレー」と名付けられた特別メニュー。学食で人気のカレーにチキンソテー、トマトソース、ほうれん草をトッピングしたもので、食べ盛りの学生でも満足の栄養とボリューム満点の一品です。

アルバイト先の飲食店が県の実情を受け時短営業となり、希望どおりに働けないという学生や、仕送りが減ったことで生活費や学用品を自分で賄わなければいけない学生も少なくない中、「野菜で栄養がとれて嬉しい」「しっかり食べるのができた。心に余裕ができた」等の声が学生から寄せられました。



▲無料で提供された「メリンちゃんスペシャルカレー」



▲提供初日に駆けつけた坂井学長。学生達から近況を聞くなど交流しました。

「埼玉大学緊急支援奨学金」を今年度も学生に給付しました — 皆さまからの多大なるご支援に心より感謝申し上げます —

コロナ禍で学生生活に支障をきたす学生に対して給付する、埼玉大学基金「修学サポート基金」を活用した本学独自の奨学金「埼玉大学緊急支援奨学金」。2020年度に続き2021年度も募集を行い、1262名の学生に給付しました。御寄附をいただいた皆さまへ、心より感謝申し上げます。



2 学生 「皆さんは埼玉大学の星！」 インカレ出場の卓球部を坂井学長が激励

6月22日(火)、創部初となる全日本大学総合卓球選手権大会(通称:インカレ)への出場を決めた男子卓球部を坂井学長が激励しました。男子卓球部は、関東学生リーグ三部に所属しており、これまで2019年秋季リーグで2位となるなど優秀な成績を収めてきましたが、ついにインカレ本戦への出場権を勝ち取りました。初快学を成し遂げた男子卓球部を応援しようと開催された壮行会で主将学生は、「コロナ禍で活動できない時期や中止となってしまった大会が多く悔しい思いをしてきたので、その分も今回のインカレでは部員一同精一杯努力して挑みたい」と抱負を語りました。それを受けて坂井学長は、「困難な状況の中でも練習を積み重ねた結果としてインカレに出場できるということは、大変素晴らしい成果。皆さんは埼玉大学の星です。ぜひ頑張ってきてください」と激励の言葉を贈りました。



▲卓球の魅力語る選手達



▲インカレ出場を決めた選手との記念撮影 (前列左から)柳澤理事、坂井学長、明蓮教授(卓球部顧問)

3 学生 「宇宙工学サークル あかとき」が 第17回種子島ロケットコンテスト大会CanSat部門で優勝

「CanSat(カンサット)」とは、飲料缶サイズの模擬人工衛星のこと。実際の人工衛星に搭載される技術を使って、CanSatを製作し、その性能を競う競技会への出場を目的に活動しているサークルが「宇宙工学サークル あかとき」です。

例年あかときが出場している大会の一つである「種子島ロケットコンテスト」は、今年は新型コロナウイルスの影響でオンラインでのプレゼンテーションによる審査となり、「アイデアが独創的であるか」「技術的に高度なことにチャレンジしているか」等について評価が行われた結果、見事優勝を果たしました。

あかときの皆さんの活躍は、オンラインマガジン「SAIDAI CONCIERGE」でもご紹介しています。是非ご覧ください。



▲(左から)理学部4年 石崎さん、工学部4年 田中さん、理学部4年 須田さん、工学部4年 佐藤さん

4 教育 埼玉りそな銀行寄附講義 「地域金融×地域創生入門」を今年も開講

4月23日(金)、埼玉りそな銀行の寄附講義「地域金融×地域創生入門」(担当:石阪督規教授)第2回目の講義が行われ、同社の福岡総代表取締役社長が「地域と金融」をテーマに講演しました。

この寄附講義は、埼玉りそな銀行の方々や、埼玉との関わりが深い企業、行政の要職にある方々に、それぞれの立場での地域との関わりや取り組み、将来ビジョンなどについてお話いただくものです。全学部の学生が履修できる基盤科目として開講しており、今年度は、対面でもオンラインでも受講することができるハイフレックス型で行っています。

福岡社長は、埼玉りそな銀行が地域金融機関として求められる役割や存在意義について、また、同社の持つネットワークやノウハウおよび地域資源を活かした地域課題の解決に向けた取り組みなどについて語ってくださいました。講演後の質疑応答の際には、多岐にわたる質問に丁寧に回答いただき、最後は「明るい未来を信じて挑戦し続けてください」と学生にエールを送りました。



▲講師を務めた埼玉りそな銀行代表取締役社長 福岡氏

埼玉大生が提案したポスターが JR東日本埼京・川越線の県内各駅に掲出

—「声かけ・サポート」運動の認知度を高めるために—

JR、私鉄など交通事業者と障害者団体が連携して展開している「声かけ・サポート」運動。しかし、まだまだ認知度が低いということで、令和2年度後期開講基盤科目「課題解決型長期インターンシップ」(担当：石阪督規教授)において、「声かけ・サポート」運動の課題や認知度を高める取組について検討しました。学部、学年を問わずさまざまな学生がグループを組み、JR東日本大宮支社の社員からの助言、グループでの討論や実地調査の結果などを踏まえ、3月に提案発表を行い、その中から、このたび「声かけ・サポート」運動のポスターが採用されました。5月20日以降、埼京・川越線各駅(戸田公園～川越駅)に掲出されています。



▲いつも親切なせっちゃん



▲埼京・川越線各駅(戸田公園～川越駅)で掲出された様子(川越駅)

埼玉県立浦和第一女子高等学校にSSH特別講義を行いました

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは、高等学校等において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究を行ったり、創造性、獨創性を高める指導方法、教材の開発等の取組を実施するものです。

本学の浦和第一女子高校へのSSH特別講義は、坂井学長が大学院理工学研究科の教授であったころから毎年行われており、その後大学院理工学研究科 坂田教授が引き継ぎ、今年度より大学院理工学研究科 竹見助教が担当し講義を行っています。5月29日(土)に行われた今回の特別講義では、昨今のコロナウイルス検査に用いられているPCR法について理解を深めるために、実際に自分の毛根の細胞からDNAを抽出し、PCR法によって遺伝子型を調べる実験を行いました。

竹見助教は、今回の講義を振り返り「実験当日には浦和第一女子高校の生徒の方々の好奇心や探求心がいたるところに垣間見え、私としてもこれからの皆さんの成長がとても楽しみになりました」と感想を述べました。



▲特別講義の様子

地域に支えられ、コロナ禍においても教育実習(応用実習I)が行われています

文部科学省は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学校現場での教育実習が困難な場合、教育実習に代わる単位として大学の授業などを認める特例措置を決め、令和2年度、3年度については「真にやむを得ない場合」に限り実習なしでも教員免許の取得を認めています。

埼玉県ではまん延防止等重点措置等に基づく協力要請が講じられていますが、本学教育学部では3年生を対象に教育実習(応用実習I)を前期と後期に分けて実施することとし、前期に割り振られた約200名が、附属学校園やさいたま市、川口市、熊谷市、春日部市、所沢市などの県内公立学校125校の協力を得て、通常どおり4週間の教育実習を行い、教師になるための実践的な経験を積みました。



▲「おべんとうバス」のお話をする実習生(附属幼稚園)

脊椎動物の進化の過程の新しい側面を示す研究結果を発表 (大学院理工学研究科 川村哲規 准教授)

大学院理工学研究科 生体制御学コースの大学院生 山田一哉さんと川村哲規准教授を中心とする研究グループは、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 前野哲輝技術専門職員と共同で、動物のボディープランを規定するHox遺伝子クラスターが、マウスとゼブラフィッシュの間で多くの異なった機能をもつことを明らかにしました。Hox遺伝子クラスターは、動物の体づくりの基盤となる役割を担う遺伝子群で、これまで進化的にも機能が強く保存されていると考えられていましたが、本研究結果は、脊椎動物の進化の過程の新しい側面を示すものとなります。この研究成果は、国際科学誌「Development」に6月7日付のオンライン版で掲載されました。

9 研究 **コロナ禍を生きる人々にエールを！
「大漁旗アート展2021」が開催されました**

6月15日(火)～25日(金)、本学教育学部 高須賀昌志教授、石上城行准教授が出展する、環境芸術学会(会長:高須賀昌志)企画「大漁旗アート展2021」が、東京都港区のオリエアート・ギャラリーにて開催されました。この企画は2007年から13回にわたって「アクアマリンふくしま」(福島県いわき市/水族館)にて行われてきた小名浜国際芸術祭の「大漁旗アート展」を元にしたもの。同館は震災で被害を受けた際もアート展を開催し、入館口で力強くはためく大漁旗の姿が多くの人に勇気と希望を与えたそうです。今回は、今までの大漁旗アート展での作品を展示するとともに、新たに会員から集めた大漁旗を展示。会場を埋め尽くす、力強く明るい作品達はコロナ禍を生きる人々にエールを送っているかのようでした。

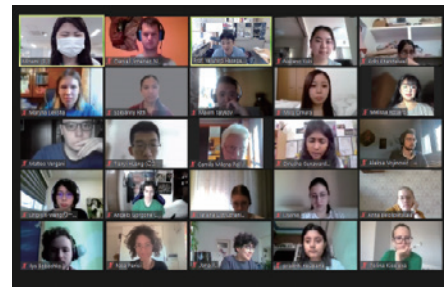


▲大漁旗展



10 国際 **オンラインサマープログラムが始まりました**

例年6月、埼玉大学では短期語学・文化研修プログラム「サマープログラム」を実施しています。2015年から始まったこのプログラムは、2019年までの5年間、毎年留学生を迎えていましたが、昨年度はコロナ禍のため実施が叶いませんでした。今年度はプログラムを日本語学習に特化し、本学協定校から18か国38人の学生が、時差のある中それぞれ自国からオンラインで参加。4週間のサマープログラム期間中、参加学生は日本語の講義を受講するだけでなく、オンラインホームステイなどを通じ、日本文化について学びました。また、プログラム期間中には、本学学生との日本語会話ルームでの交流を通して、多くの学生ボランティアが日本語学習のサポートや交流イベントの企画・運営で活躍しました。



▲サマープログラム参加学生の皆さん

11 その他 **感染不安の学生等を対象にPCR検査を実施**

埼玉大学では、新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者と接触したものの、自身は濃厚接触者に認定されなかった学生や教職員を対象とした、無料のPCR検査を6月から導入しました。通常、保健所から濃厚接触者に認定された場合はPCR検査費用が無料になりますが、認定されない場合は自費での検査となります。感染の不安があっても検査を受けることが難しい学生・教職員を対象に大学負担でPCR検査を実施することで、学内での感染拡大防止につなげていきます。(7月28日(水)現在、42名が受検)

埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。現在、下図のとおり大学の機能強化、学生支援の充実を目的とすご寄附を幅広く受け入れております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。

また、不要となった本やDVDをお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただける古本募金「きしゃぼん」を導入しております。

詳細は下記ホームページをご覧ください。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

<p>埼玉大みらい基金 【募集期間】2019年11月～2024年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 埼玉大学の機能強化を支援 <ul style="list-style-type: none"> 教育・研究への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの整備充実等 ・国際的研究力の向上等 キャンパス環境整備への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心・快適なキャンパス整備等 国際交流事業への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・海外留学の促進等 ・外国人留学生受入促進等 社会連携事業への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地域・社会との連携充実等 ・企業との連携強化等 ■ 学生への奨励事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> 特に優秀な学生への給付型奨励金制度の創設 	<p>冠奨学金基金</p> <p>寄附者の方の想いに沿った奨学金制度を創設</p> <p>一定額以上(30万円以上)を寄附した寄附者(法人・個人)が、奨学金名称、奨学金の額及び対象学部等を設定いただけます。</p>	<p>特定基金 埼玉大学修学サポート基金</p> <p>経済的理由により修学に困難がある学生等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料・入学科減免事業 ・奨学金事業 ・海外留学支援事業 ・TA・RA事業
<p>◆ 埼玉大学基金へのご寄附の累計額</p> <p>令和3年6月末の状況 577,983,120円</p> <p>うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 1,242,828円</p>		

埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/

